

開催地名：千葉県八千代市	
開催日時	令和元年 12 月 14 日（土） 10：00 ～ 11：10
開催場所	八千代市役所
語り部	武蔵野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	八千代市自主防災組織（162 組織） 約 200 名
開催経緯	当市では、東京湾北部地震や千葉県北西部直下地震による甚大な被害が想定されているが、東日本大震災から 8 年が経過したことにより、市民の災害に対する意識の低下が懸念されている。過去の災害を風化させることなく、常に災害に対する意識を高く保つための取り組みとして、体験談の伝承活動を行いたいが、当市は大規模災害を経験していないため、実体験に基づく講演ができないことが課題である。
内容	（１） はじめに 私が住む陸前高田市は岩手県南部の太平洋側に位置しており、岩手県の中では比較的温暖な地域で、東北の湘南とも呼ばれている。この陸前高田市は、皆様ご存知のように、東日本大震災で津波の被害を受け、街が壊滅してしまった。本日は生活者の視点からの避難所運営についてお話しさせていただく。 （２） 東日本大震災の被害状況 三陸沿岸は昔から津波の被害を受けてきた。さかのぼれば明治三陸大津波や昭和三陸大津波、チリ地震の津波の被害が有名である。これらの津波被害を受けて対策が講じられてきたにも関わらず、また、情報網が整備されていたにも関わらず、東日本大震災では多くの犠牲者が発生した。市内の公共施設についても、市庁舎や図書館、体育館、公民館、小中学校や保育所等の多くの施設が全壊した。人口 24,246 名のうち、死者・行方不明者は 1,757 名にものぼった。 （３） 避難とは 陸前高田市では、避難場所の半数以上が被害に遭った。一部の地区では、訓練時に使用していた地区防災センターという場所に多くの方々が避難したが、実は防災センターは指定避難所ではなかった。そのため、避難所だと思い込んで避難してきた方々の多くが犠牲になってしまった。皆が逃げることができなければ避難とは言えない。要支援者を含む避難訓練を日頃から実施できているかどうか皆さんも今一度考えていただきたい。 陸前高田市ではそのような訓練が行われていなかったために、多くの犠牲を出してしまったと言える。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識してほしい。 また、避難と避難所へ行くことは同じではない。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要であるし、ストレスが大きい場所にあえて行く必要は

ないと言える。家が安全であれば家で生活してもらって全く問題ない。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことだ。家には3日から7日程度食べつなげる食材をストックしていただきたい。長期保存の必要はなく、日常の中に食料備蓄を取り込むという考え方だ。普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく、「ローリングストック」という方法をお勧めしたい。

避難所での避難生活では、一般的な備えしかない。アレルギーに対応した食品や、赤ちゃんのミルク、個々の病状に応じた薬等、個人にとっては必須のものでも、一般的なもの以外は用意されていないのが現実である。自分にとって必要なものについては、自分で備える必要がある。

(4) 災害は必ず起こりうる

自分の住む地域の災害リスクを知ることや、過去に受けた災害について知ることは必要である。また、以前の津波はここまでは来なかったから大丈夫とか、まさかここまでは水は来ないとか、自分に都合の良い判断はせずに、常に想定外を想定することが必要である。

そして、家族で落ち合う場所を確認しておくことや、自助としての避難グッズを準備しておくこともおすすめしたい。守りたい人がいるならまず自分の身の安全を確保することを意識していただき、救助される側から救助する側になれるよう意識した準備を行っていただけたら幸いである。



開催地より

陸前高田市が受けた津波被害の実際の状況を改めて認識して、そのすさまじさを痛感した。非常にためになるお話で、住民の自助意識を高められたと思う。